

循環型住宅提案コンペ

根岸さんら(徳島市内の設計事務所)第一席

県人初 部屋用途替え容易に

地域の歴史や文化、地球環境を重視した循環型社会にふさわしい住宅を提案する設計コンペ「第三回真の日本のすまい」(住宅産業研修財団主催)で、第一席にあたる国土交通大臣賞に、徳島市川内町の設計事務所「UN建築研究所」の建築家、根岸徳美さん(画)らが設計した住宅が選ばれた。同コンペで県人が第一席に選ばれたのは初めて。六日、東京都内で表彰式が行われた。



根岸徳美さん

同じ事務所の建築家植村成樹さん(画)が共同提案者。受賞したのは「サンゲンカク」と呼ぶ三間四方の空間を基本単位とし、それに台所や玄関など必要な付帯空間を付け加えた形の木造住宅。神奈川県鎌倉市や高松市などで施工されている。

シンプルな構造のため、新たに三間四方の空間を加える増築や部屋の用途替えにも比較的容易に対応でき、人生設計に応じて居住空間をさまざまに活用できるのが特

徴。規格化された構造材し、国産材の流通に配慮を使って施工を効率化していることも高く評価

された。

コンペは、これまで日本各地で培われてきた住まいづくりの知恵や文化を評価し、地球環境との関係も重視した住まいづくりを支援しようと二〇



三間四方の「サンゲンカク」を基本単位に根岸さんらが設計した神奈川県鎌倉市の住宅

〇四年に始まった。今回な家をきっかけに、地域は全国の設計事務所や山の木で造られる住まいがもつと身近になり、工務店などから二百九件の応募があり、根岸さん楽しみながら気持ちよくら七件の入賞作を選んだ。根岸さんは「この小さいと思ふ」と話している。